

01

リベシティに入会してから資産が増えたかどうか

今年の調査結果について

- **全回答者では、82.9%が「資産が増えた」と回答**
(※前回は86.2%、前々回が82.9%)
- 入会から1~3ヶ月で半数以上、**4~6ヶ月で8割以上が資産増加を実感**
- 継続期間が長いほど、資産アップ実感者の割合は増加
→ 継続とともに成果実感が高まる傾向

昨年調査時との比較について

- 特に入会1~3ヶ月層で資産増加の実感割合が低下
→ **直近は初心者層がより多く入会していることもあり、成果が出るまで時間がかかっている可能性あり**

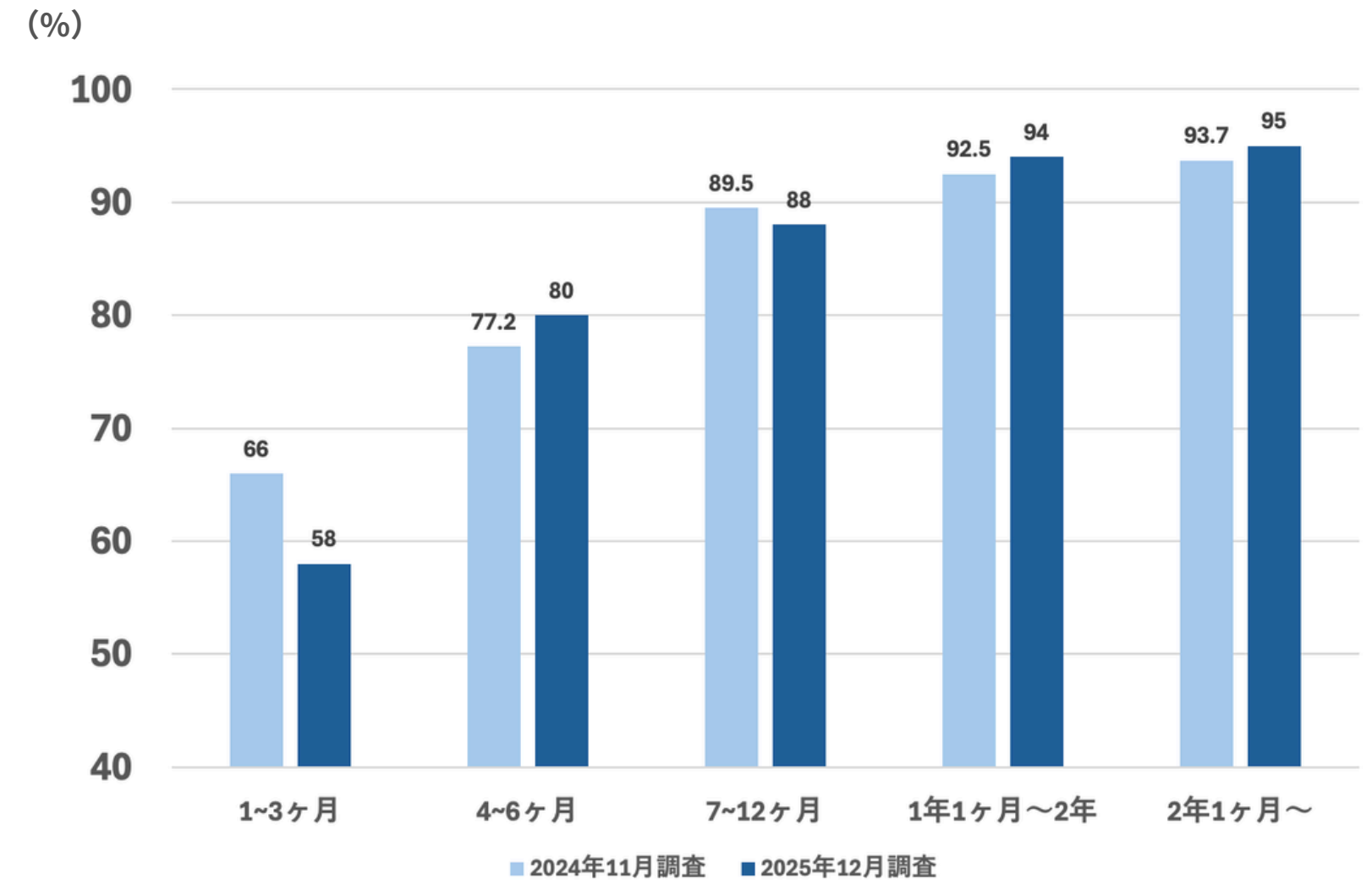
<参考調査：令和7年の家計の金融行動に関する世論調査>

1年前と比較して資産が増えた人の割合

- 単身世帯：32.5%
- 二人以上世帯：34.5%

※調査条件は異なるものの、入会1年以内でも約8割が資産増加を実感している点は、参考調査を大きく上回る水準

継続期間別のグラフ（前回比較）

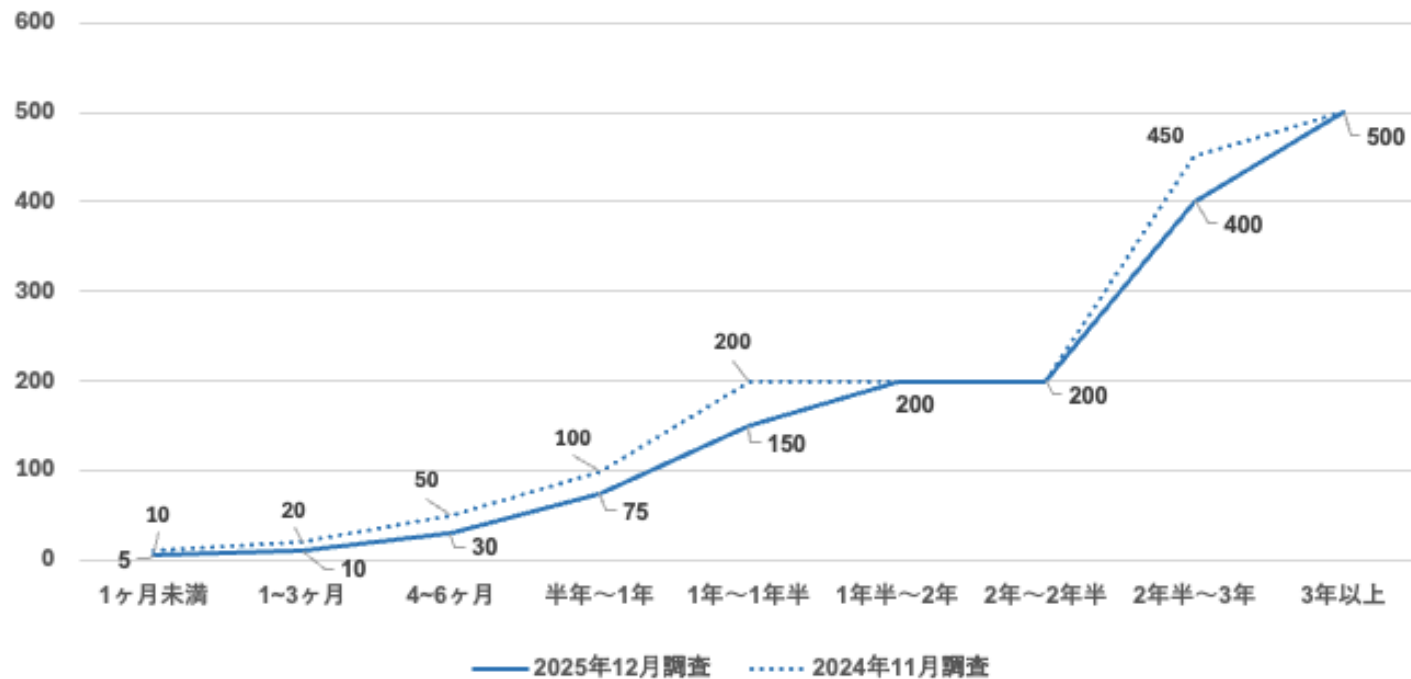


02

リベシティに入会してから、どのくらい資産が増えている？

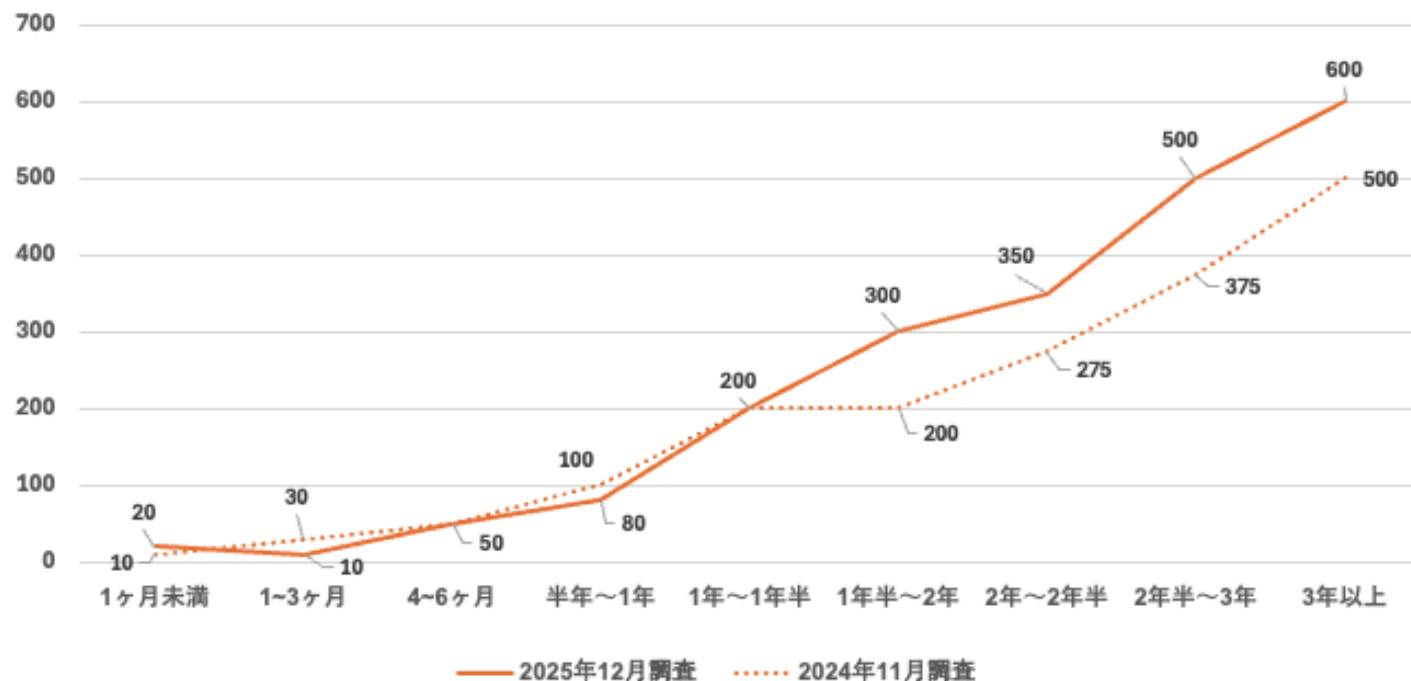
「リベシティの情報が資産アップに影響しているか」をヒアリングし、「**強く影響している**」と回答した方のみで増加した資産を調査
継続期間に分けて、**世帯別で中央値を算出**

単身世帯



- 在籍期間が長くなるほど増加額が段階的に拡大する、明確な右肩上がりの構造**
- ・単身世帯では、1年で約75万円、1年半で150万円、2年で200万円、3年以上で500万円と比例
- ・2人以上世帯ではさらに伸び幅が大きく、1年で80万円、2年で300万円、3年以上で600万円と比例

2人以上世帯



- 前年同時期と比較して2人以上世帯はより資産アップしている**
- ・2年以上の中長期層では前回と同水準または上回る期間も多く、特に2人以上世帯では伸びが顕著
- ・1年未満の短期層ではやや低下している期間もあるが、これは直近の初心者層増加による影響の可能性が考えられる。
- ・前年の短期層が今年は中長期層へ移行していることを踏まえると、時間経過とともに着実に成果が積み上がっている可能性が高い。

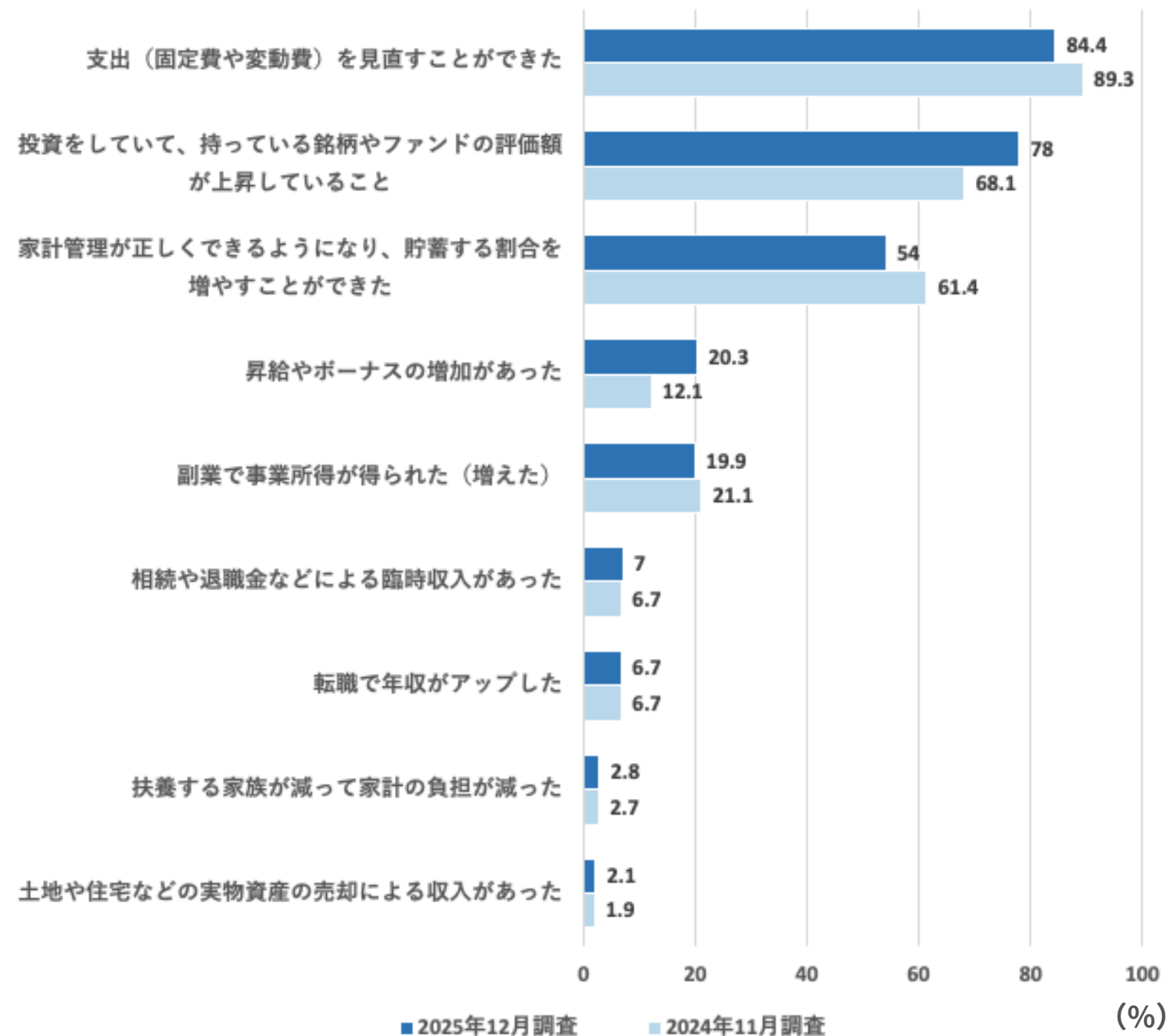
→**資産が増えずに退会した層がいる可能性は否定できないものの、少なくとも継続している層においては「継続積み上げ型」の成果構造が明確に表れていると言える。**

03

何で資産アップを実感している？

「リベシティ入会時と比較して資産が増えた」と回答した人に、増えた要因をヒアリング

結果



貯める力関連の改善

- ・「支出の見直し」が2024年：89.3% → 2025年：84.4%で、多少減少したものの最大要因に
- ・「貯蓄割合の引き上げ」も61.4% → 54.0%と多少減少したものの、依然として半数を超える

「投資評価額の上昇」は増加傾向

- ・ 68.1% → 78.0%（約10pt増）
- 投資参加と継続が成果に反映されている可能性

参考値（令和7年家計の金融行動に関する調査）

- ・ 保有銘柄やファンドの評価額が増加したから：単身世帯で32.9%、二人以上世帯で38.7%
- ・ 貯蓄する割合を引き上げたから：単身世帯で20.6%、二人以上世帯で22.4%

→リベシティ会員では、貯蓄割合アップ：54%、投資評価額アップ：78%でいずれも世論調査を大きく上回る水準

→資産増加の背景は「支出最適化」＋「投資継続」＋「収入増」の三本柱。

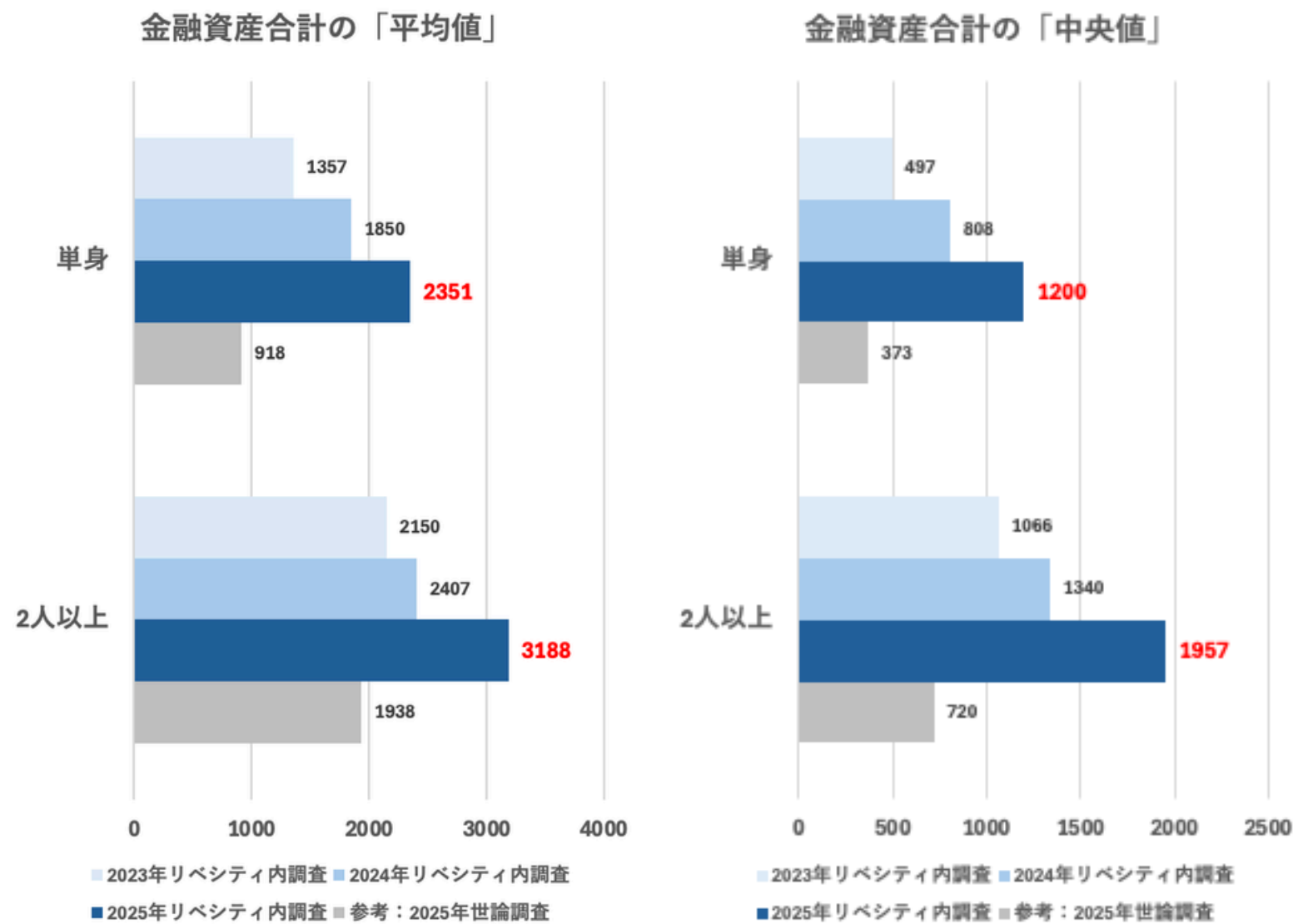
→特に貯蓄率向上と投資実践の影響度合いの高さは、一般調査と比較しても顕著であり、実践型コミュニティとしての特徴がデータに表れている

04

保有している金融資産の前年比較と、参考調査比較

金融資産：「預貯金（生活に使っている分は除く）」「有価証券や債券・投資信託」「貯蓄型保険」「その他でヒアリング」
 ※生活に使っている分＝家計の金融行動調査データより、単身世帯は262万円、2人以上世帯は443万円を引いた金額

会員全体の結果



世帯別の種別内訳 ※ () が中央値

単位：万円		預貯金	有価証券 債券・投資信託	保険 (貯蓄型)	その他
单身	2023年リベシティ内調査	563	697	55	42
	2024年リベシティ内調査	530 (51)	1222 (450)	54 (0)	44 (0)
	2025年リベシティ内調査	700 (168)	1466 (700)	76 (0)	109 (0)
	参考：2025年世論調査	373	349	158	38
2人以上	2023年リベシティ内調査	916	1012	135	87
	2024年リベシティ内調査	756 (240)	1456 (700)	114 (0)	79 (0)
	2025年リベシティ内調査	996 (357)	1879 (1000)	214 (0)	99 (0)
	参考：2025年世論調査	745	727	364	102

- ① 2023年→2025年で資産中央値は継続的に増加
- ② 増加の主因は「有価証券の積み上げ」
- ③ 世論調査と比較すると、投資比率が明確に高い

05

保有している金融資産の世帯別、および年代別比較

金融資産：「預貯金（生活に使っている分は除く）」「有価証券や債券・投資信託」「貯蓄型保険」「その他でヒアリング」

※世論調査と合わせて出している項目のため、単身世帯は男女を分けていない

単位：万円 平均値(中央値) で記載	年代	預貯金	有価証券 債券 投資信託	貯蓄型保険	その他	金融資産 合計
単身世帯	20代	118(0)	428(200)	0.7(0)	13(0)	561(290)
	30代	362(38)	1,036(550)	35(0)	59(0)	1,492(938)
	40代	698(238)	1,491(850)	55(0)	159(0)	2,396(1,400)
	50代	1,024(438)	2,136(850)	144(0)	119(0)	3,422(2,000)
	60代	1,858(738)	2,271(1,000)	219(0)	174(0)	4,522(3,038)
2人以上世帯 <small>※回答者の年代</small>	20代	187(0)	484(300)	13(0)	17(0)	715(430)
	30代	640(157)	1,541(1,000)	59(0)	38(0)	2,304(1,501)
	40代	932(357)	1,905(1,000)	159(0)	90(0)	3,104(1,912)
	50代	1,346(557)	2,086(1,000)	119(10)	167(0)	3,925(2,657)
	60代	2,133(1,257)	3,126(1,600)	174(55)	226(0)	6,075(3,750)

<簡易でまとめると>

- ① すべての年代で前年より増加
- ② 年代が上がるほど投資資産が拡大
- ③ 資産増加の中心は有価証券

2人以上世帯の30代以降で、有価証券中央値が1,000万円規模に達している
→長期積立投資が継続的に実践されている結果と考えられる。

中央値で見ると、単身世帯、2人以上世帯では50代で資産2,000万円到達
→50代会員のおおよそ半分は2,000万円以上の資産を持っている

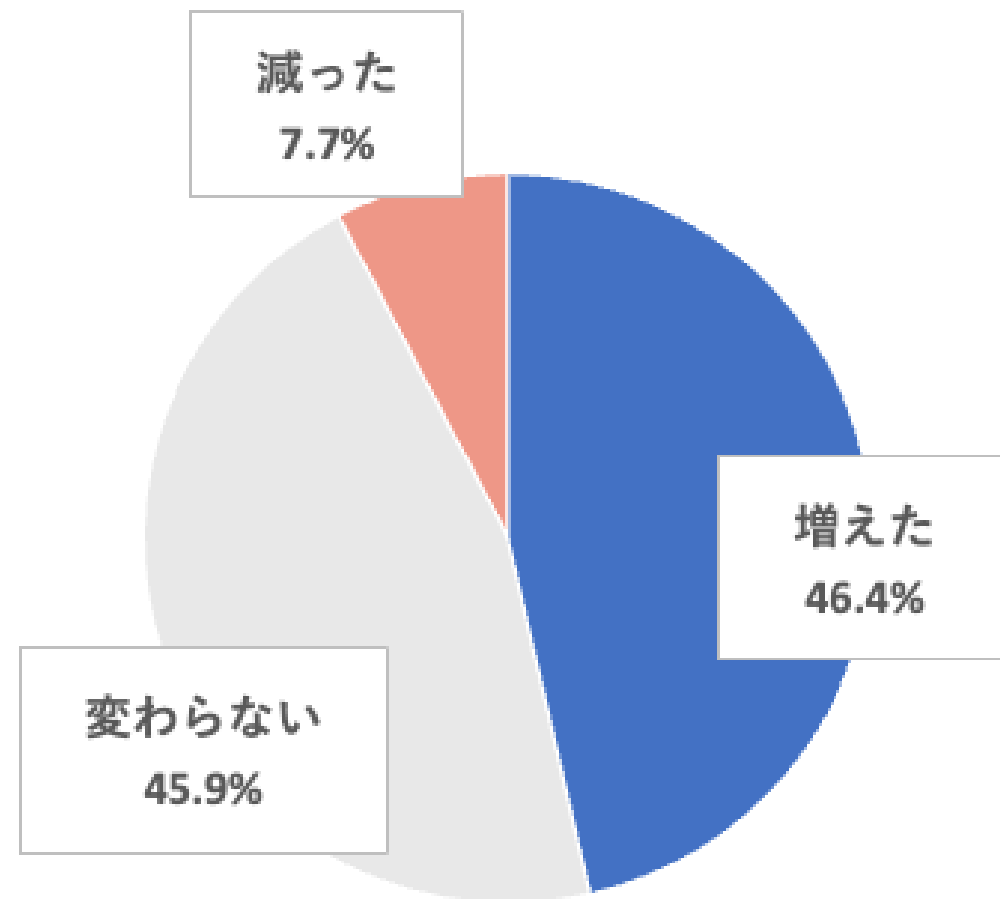
20代は預貯金中央値「0」＝生活に使っている金額を抜いているため

保険は一定の保有者がいるものの、単身世帯はいずれも中央値が「0」で半数以上は貯蓄型保険を契約していない

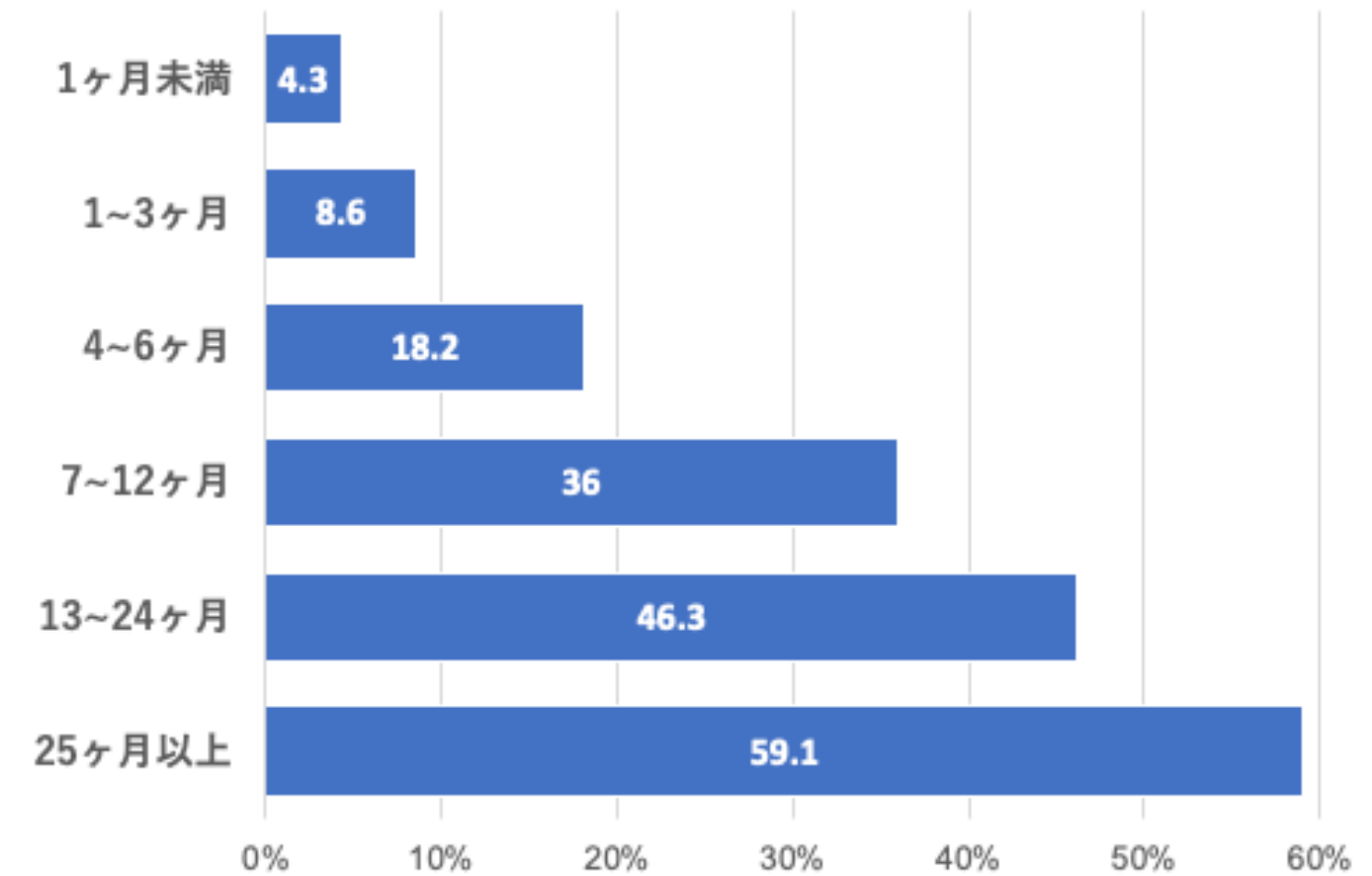
06

リベシティに入会した時と比べて収入が増えたか

会員全体の結果



継続期間別でみると



「増えた」が46.4%と最も多く、「変わらない」も45.9%とほぼ同水準
→「稼ぐ力」の成果が出ている層がいるものの、これから成果が出ていく段階の会員も多くいる

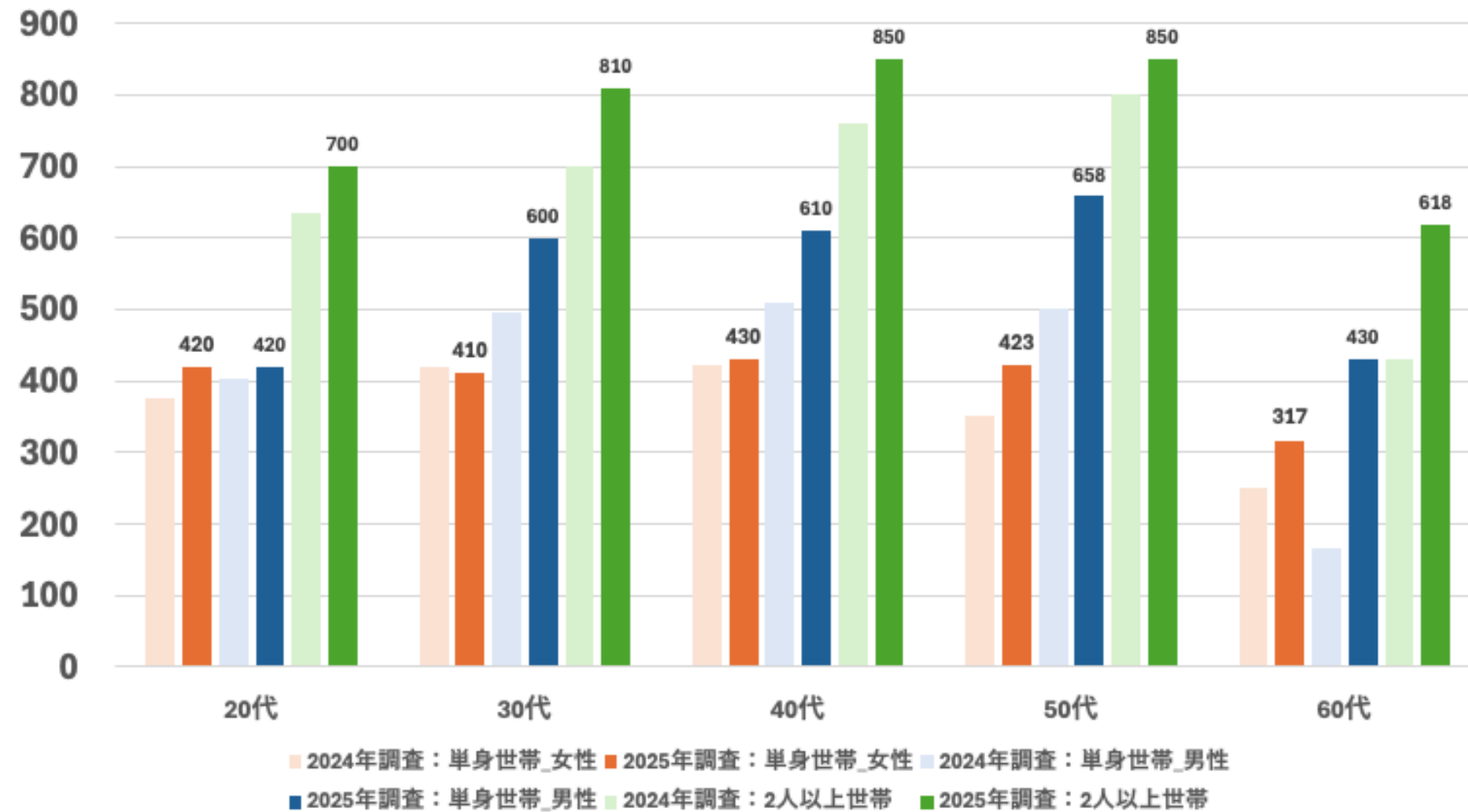
継続期間が長くなるほど、「収入が増えた」と回答する割合が増加
→時間をかけて継続的に取り組むことで変化を実感しやすい

07

世帯収入の世帯別比較

収入：「給与所得（額面上）」「事業所得」「不動産所得」「配当・利子所得」＋その他（年金・手当など）

会員全体の中央値（濃い色が今年の調査）



昨年データと比較すると、やや高めに出ている
 →厳密に同じ人だけで比較していないので、そこは留意（特に60代）
 →また、若干聞き方を変えていることもあり、今年はやや高く出ている可能性もある
 →実際に昇給/ボーナスアップ、転職、副業での事業所得アップで成果を実感している人は増えている。中央値ベースの参考値として活用していく

08

世帯収入の年代別比較

収入：「給与所得（額面上）」「事業所得」「不動産所得」「配当・利子所得」
 +その他（年金・手当など）

	単位：万円						合計
	平均値(中央値)	給与 (額面)	事業	不動産	配当利子	手当/補助金/ 年金など	
単身世帯 (女性)	20代	388 (400)	25 (0)	1 (0)	3 (0)	5 (0)	421 (420)
	30代	368 (366)	41 (0)	9 (0)	7 (0)	20 (0)	443 (410)
	40代	392 (392)	40 (0)	7 (0)	16 (2)	18 (0)	471 (430)
	50代	393 (360)	38 (0)	23 (0)	26 (4)	19 (0)	498 (423)
	60代	229 (204)	34 (0)	40 (0)	25 (5)	52 (0)	379 (317)
単身世帯 (男性)	20代	374 (400)	41 (0)	2 (0)	7 (0)	10 (0)	432 (420)
	30代	521 (530)	65 (0)	6 (0)	16 (3)	9 (0)	616 (600)
	40代	541 (550)	113 (0)	19 (0)	27 (5)	13 (0)	711 (610)
	50代	520 (480)	90 (0)	58 (0)	56 (10)	15 (0)	738 (658)
	60代	388 (340)	20 (0)	10 (0)	66 (43)	53 (0)	535 (430)
2人以上世帯	20代	679 (700)	22 (0)	4 (0)	4 (0)	22 (0)	719 (700)
	30代	790 (750)	62 (0)	10 (0)	15 (2)	32 (0)	907 (850)
	40代	823 (800)	84 (0)	28 (0)	20 (3)	23 (0)	975 (863)
	50代	795 (780)	78 (0)	49 (0)	32 (5)	27 (0)	977 (880)
	60代	502 (400)	101 (0)	27 (0)	42 (10)	128 (85)	800 (650)

収入の中心は給与（額面）で、年代が上がるほど合計収入も基本的に増える

40～50代は伸びが緩やか／横ばいになりやすく、ピークは世帯・性別でばらつく

中央値で見ると「給与以外（事業・不動産・配当など）」は多くの層で0に近く、収入構造は“給与中心”が基本（副収入は一部の人が押し上げている）

手当/補助金/年金などは60代で相対的に存在感が増える

全体として「収入は世間一般と近い一方で、金融資産が厚い」＝家計管理・貯蓄・投資で資産形成が進んでいる姿が示唆される

<性別ごとの中央値の参考データ（世帯状況関係なく）>

女性中央値：25～29歳で300万円、30～34歳で291万円、35～39歳で286万円、40～44歳で288万円、45～49歳で298万円、50～54歳で292万円、55～59歳で283万円

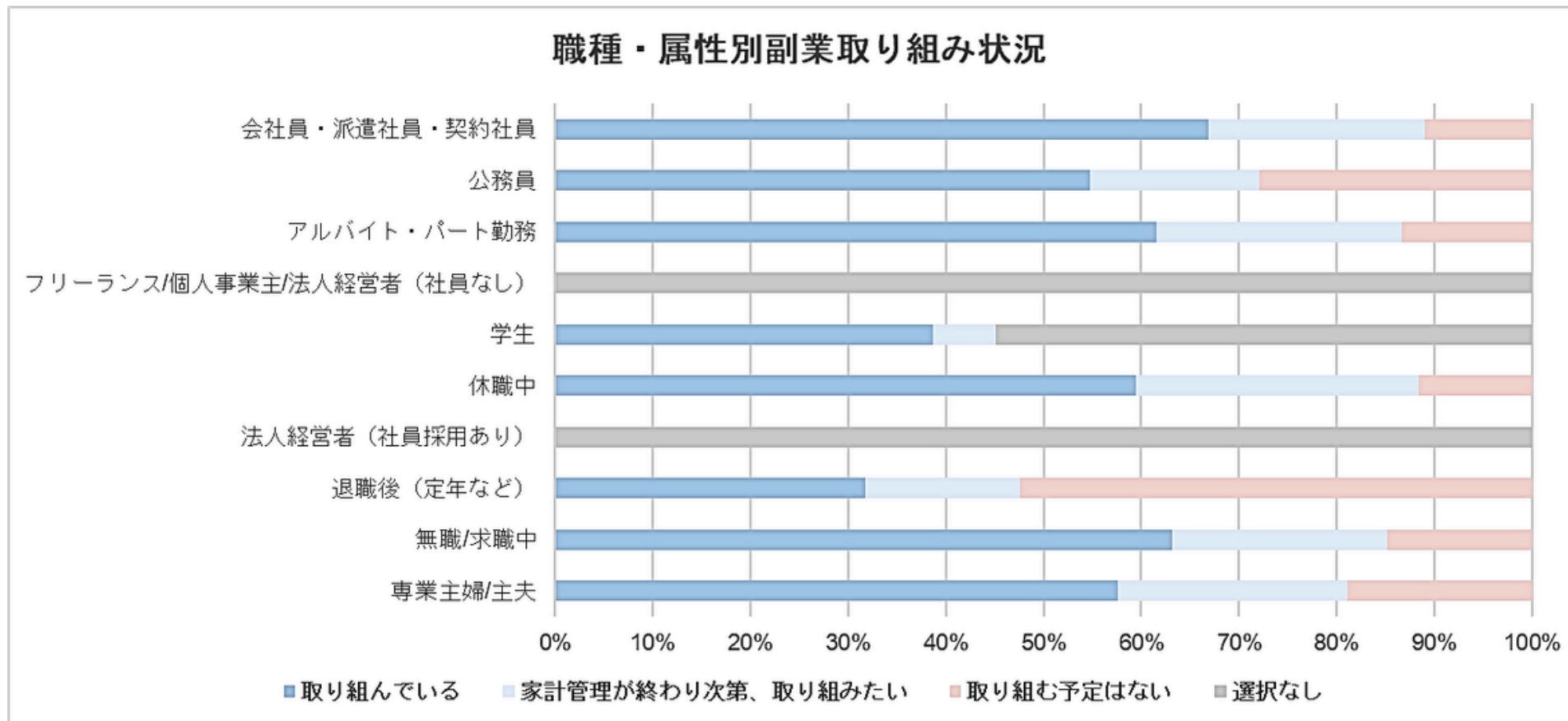
男性中央値：25～29歳で361万円、30～34歳で417万円、35～39歳で472万円、40～44歳で518万円、45～49歳で553万円、50～54歳で588万円、55～59歳で604万円

※収入は世帯状況で大きく変わるので一概には比較できない（結婚、育児、家族との同居などで環境も変化するため）

09

参考：属性別の副業取り組み状況（2025年夏のデータ）

副業の取り組み状況、取り組み予定についてヒアリング（個人事業主や経営者は事業所得なのでヒアリング対象外）



属性別の副業16選取り組み割合TOP5

職種	せどり	アフィリエイト	YouTube	ハンドメイド	Webライター
会社員	23.5%	21.1%	12.3%	6.1%	6.5%
アルバイト	19.3%	16.2%	6.3%	21.7%	5.2%
公務員	27.1%	25.3%	9.2%	4.8%	5.7%
専業主婦	17.0%	21.0%	9.1%	17.6%	6.3%
無職/求職中	11.6%	32.6%	13.7%	9.5%	7.4%

1位: 最も人気の副業 (赤) 2位: 2番目に人気 (黄) 3位: 3番目に人気 (緑)

属性によって差はあるが、比率が大きい「会社員（構成比51.3%）」「公務員（構成比8.7%）」「アルバイト/パート（構成比12.5%）」の方は、**50~60%が副業に取り組んでいて、今後取り組む予定の人も多い**

※その他の構成比の主要なところとして「フリーランス/個人事業主(15.4%)」、「法人経営者(1.4%)」、「専業主婦/主夫(6.3%)」

※この設問は副業収入発生を問わないもので、公務員は家族のお手伝いも含めた数値になる

せどりが安定収入層に人気で、ブログアフィリエイトは全職種で安定的な人気でTOP2

→せどりは、仕入れ資金を活用しやすい副業として選んでいる構図

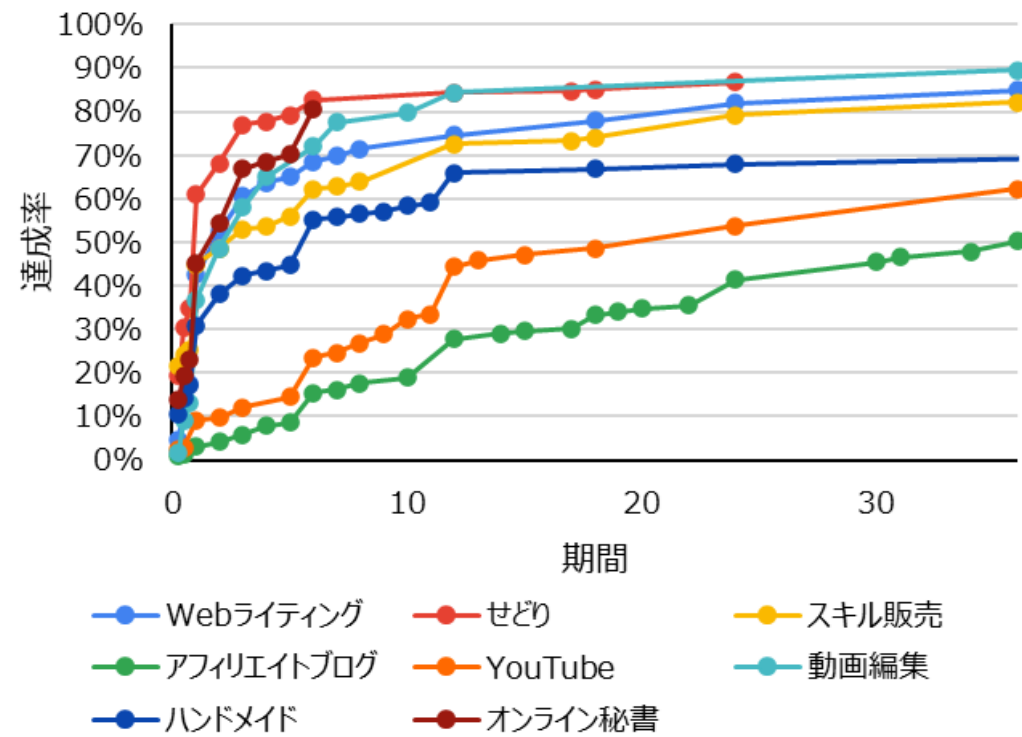
→ブログは、参入障壁の低さと場所を選ばない特性から、無職/求職中の方も32.6%が取り組んでいる特徴があった

10

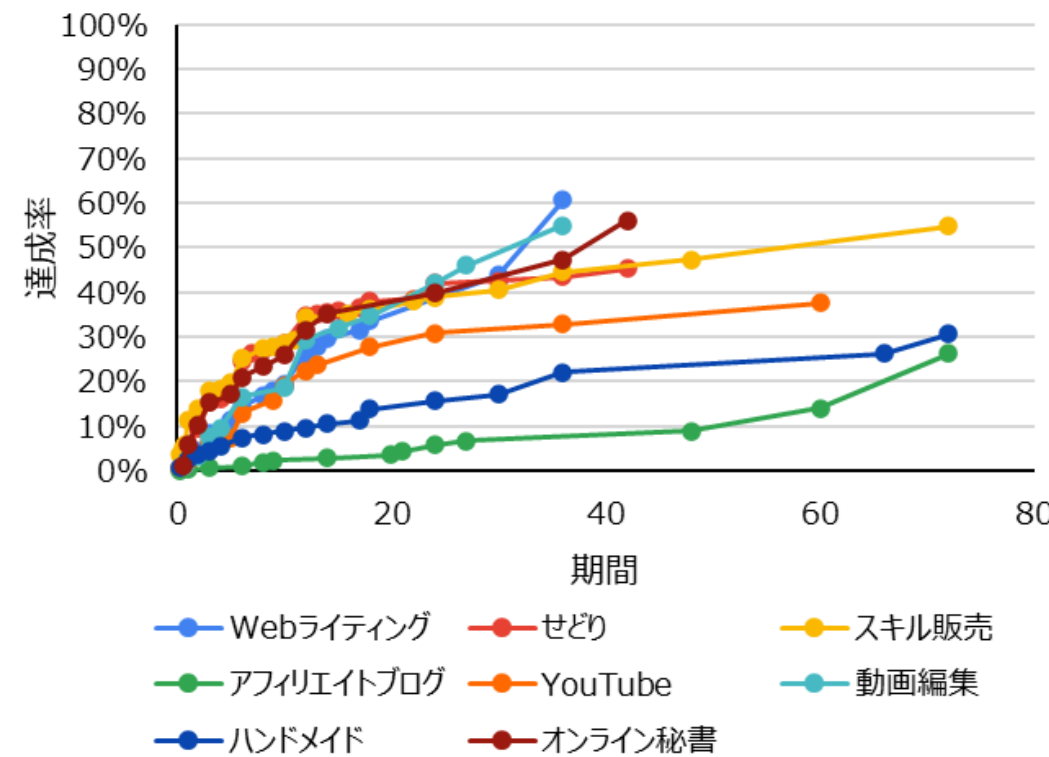
参考データ：副業で収入を得るまでの期間（2025年夏のデータ）

一番取り組んでいる副業について、収入が発生するまでの期間をヒアリングして、稼げてない人も含めて可視化。取り組んでいる人が多い（データ上信頼性を担保できる）8職種に限定している。学び期間も含む。

1,000円/月 稼ぐまでの期間（単位：ヶ月）



50,000円/月 稼ぐまでの期間（単位：ヶ月）



<グラフの見方>

- ・副業別の「その時点での金額達成率」を可視化している形
- ・例えば、ブログに取り組んでいる人で、10ヶ月時点の「月1,000円」達成率は20%
- ・グラフが切れているところは、それ以上の期間のヒアリングができなかったところ。

月の収益額1,000円達成までが一番早いのは「せどり」：6ヶ月で82%以上

「アフィリエイトブログ」が最も稼ぐまでの期間が長く、12ヶ月（1年）で約27%程

1年以内に5万円稼ぐ人の割合は、1位せどり（34.78%）、2位スキル販売（34.43%）、3位オンライン秘書（31.69%）

→ 「スキル販売」「オンライン秘書」は1,000円稼ぐまでに時間がかかるものの、5万円に到達するスピードは「せどり」と大きく変わらない

→ 「アフィリエイトブログ」「ハンドメイド」「YouTube」など、自身でコンテンツを作る/育てるジャンルの副業は、月5万円達成まで期間がかかっている

※最終的には続けられるかどうか、自身にあっていく副業か、方向性が間違っていないかが大事だけど、キャッシュを早く得たいかどうか/自身で続けていて不安になっている方向けの参考資料となる

※この調査はリベシティのコンテンツ利用状況との複合的な解析をしていないので、あくまで一軸の参考値として

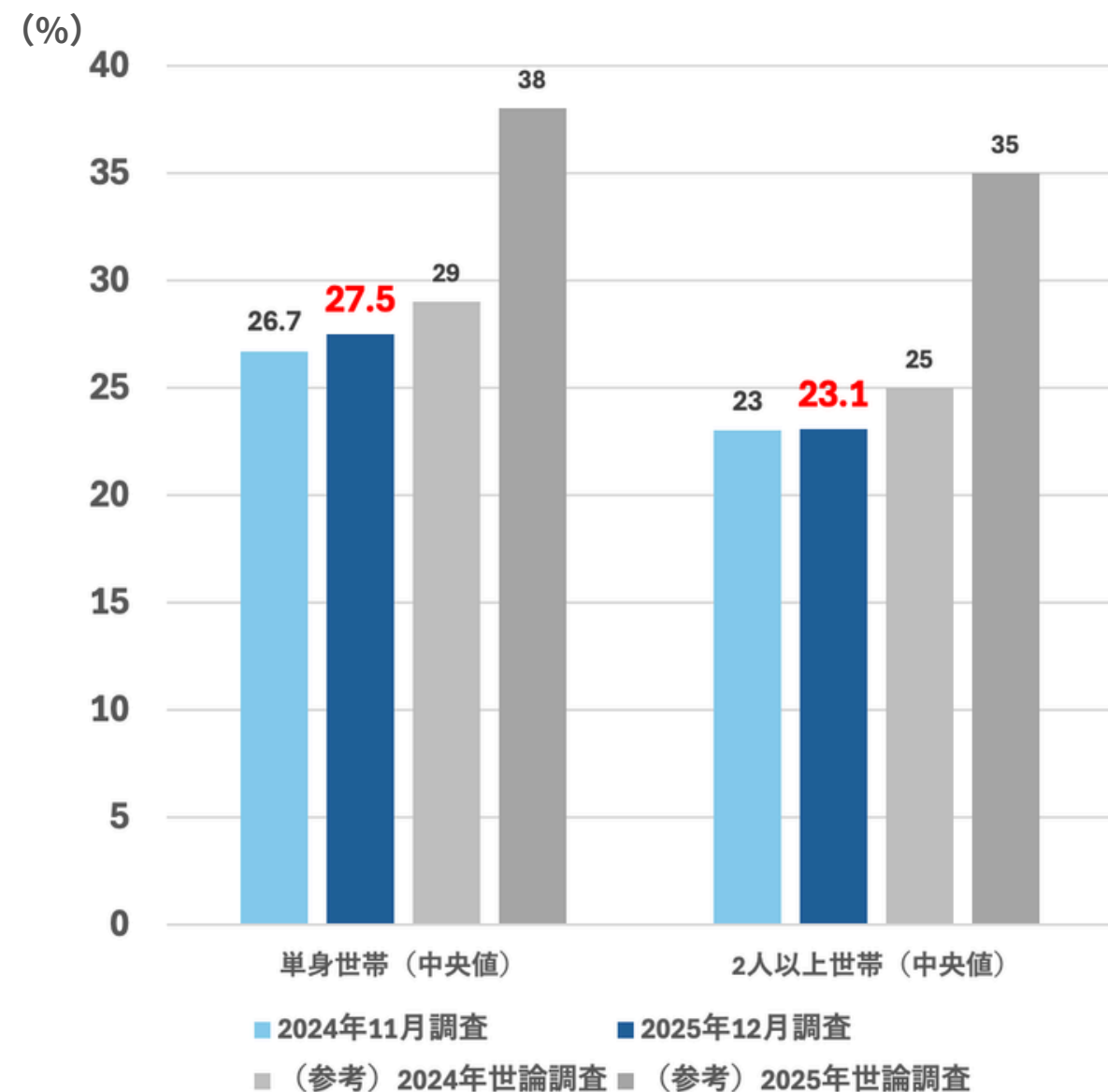
11

貯蓄率データ

計算式：「1年間の手取り収入のうち、貯蓄や投資に回せた金額 / 1年間の手取り収入 × 100」

※貯蓄をした金額を収入より多く回答している人は、収入分は全て回せたと判断してMax値100%として対応

会員全体の結果



貯蓄率は中央値で20%を超えていて、単身世帯では27.7%、2人以上世帯では23.1%

昨年比でほぼ変わらず

世論調査の方が高め (注意事項あり)

→ 宿題リストに沿って家計管理や固定費見直しを実践することで、

リベシティ会員全体として貯蓄率が高い結果になっている

→ 初心者層が新しく入会しているため、全体でならずと大きく変動しない

→ 世論調査は「金融資産を持っていて、かつ金融資産に回すことができた人」のみの数値。リベシティの調査はいずれも含めた数値なので、比較すると低めに出ていることは注意。

補足データとして、**単身世帯で貯蓄率20%以上を超えていたのが64.3% (前回60%)**、**2人以上世帯で貯蓄率20%以上を超えていたのが55.8% (前回57%)**

→ 単身世帯は改善も、2人以上世帯はほぼ変わらず

→ 回答者という母集団に限り、リベシティ会員の半分以上は貯蓄率20%以上に

12

消費・貯金・投資の内訳データ：年代別

所得（給与は手取り）をベースに、それぞれの消費先にどのくらいの金額・割合を年間で投じているかの一覧表です。

年代別データ

1段目：金額（万円） 2段目：割合（%） いずれも中央値（平均値）で記載		年代	所得 ※給与は手取り	消費	預貯金	インデックス 投資	日本の 高配当株投資	米国の 高配当株投資	債権投資	その他の投資
単身世帯	20代	350 (356) 100 (100)	250 (241) 71.4 (67.7)	55 (28) 15.7 (7.9)	45 (64) 12.9 (17.9)	0 (17) 0 (4.8)	0 (5) 0 (1.3)	0 (1) 0 (0.2)	0 (1) 0 (0.2)	
	30代	415 (446) 100 (100)	295 (288) 71 (64.5)	60 (22) 14.5 (4.8)	60 (100) 14.5 (22.3)	0 (30) 0 (6.7)	0 (4) 0 (0.8)	0 (3) 0 (0.6)	0 (2) 0 (0.3)	
	40代	415 (496) 100 (100)	295 (326) 71 (65.6)	55 (26) 13.3 (5.1)	65 (104) 15.7 (20.9)	0 (32) 0 (6.4)	0 (5) 0 (1)	0 (4) 0 (0.8)	0 (1) 0 (0.2)	
	50代	383 (457) 100 (100)	273 (266) 71.3 (58.1)	48 (16) 12.3 (3.5)	60 (105) 15.7 (22.9)	3 (45) 0.7 (9.7)	0 (7) 0 (1.4)	0 (19) 0 (4)	0 (2) 0 (0.4)	
	60代	224 (299) 100 (100)	164 (154) 73.3 (51.4)	38 (23) 16.7 (7.6)	23 (79) 10 (26.3)	0 (35) 0 (11.5)	0 (8) 0 (2.4)	0 (3) 0 (0.7)	0 (1) 0 (0.1)	
2人以上世帯 ※回答者の年代	20代	538 (507) 100 (100)	438 (357) 81.4 (70.3)	40 (34) 7.4 (6.6)	60 (97) 11.2 (19.1)	0 (17) 0 (3.3)	0 (3) 0 (0.4)	0 (1) 0 (0.1)	0 (1) 0 (0.1)	
	30代	648 (686) 100 (100)	498 (468) 76.9 (68.2)	45 (32) 6.9 (4.6)	95 (133) 14.7 (19.3)	10 (46) 1.5 (6.7)	0 (4) 0 (0.6)	0 (4) 0 (0.5)	0 (2) 0 (0.1)	
	40代	673 (748) 100 (100)	523 (528) 77.7 (70.5)	65 (28) 9.7 (3.7)	80 (138) 11.9 (18.4)	5 (44) 0.7 (5.8)	0 (7) 0 (0.8)	0 (5) 0 (0.6)	0 (1) 0 (0.1)	
	50代	661 (746) 100 (100)	511 (484) 77.3 (64.8)	57 (41) 8.6 (5.4)	85 (146) 12.9 (19.6)	8 (53) 1.2 (7)	0 (9) 0 (1.1)	0 (15) 0 (1.9)	0 (1) 0 (0.1)	
	60代	401 (536) 100 (100)	276 (227) 68.8 (42.2)	44 (85) 10.9 (15.7)	68 (134) 17 (25)	14 (63) 3.4 (11.7)	0 (8) 0 (1.5)	0 (21) 0 (3.8)	0 (1) 0 (0.1)	

消費の割合はおおむね7割前後

単身・2人以上世帯ともに、消費は手取りの約7～8割で推移。

→大きく浪費型に偏っている構造ではなく、一定の投資・貯蓄余力を確保している家計構造。

インデックス投資は月5万円超が中心

- ・単身世帯：30代・40代・50代で中央値60万円前後／年（＝月5万円超）
- ・2人以上世帯：30代以降は80～95万円前後／年（＝月6～8万円水準）

→多くの年代で、月5万円以上をインデックス投資に回している（リベのロールモデル）

高配当株は“補完的ポジション”

- ・日本・米国高配当株の中央値は0～数万円水準
- ・実施していない層も多い

→主軸はあくまでインデックス投資

年代が上がるほど投資額は増加傾向

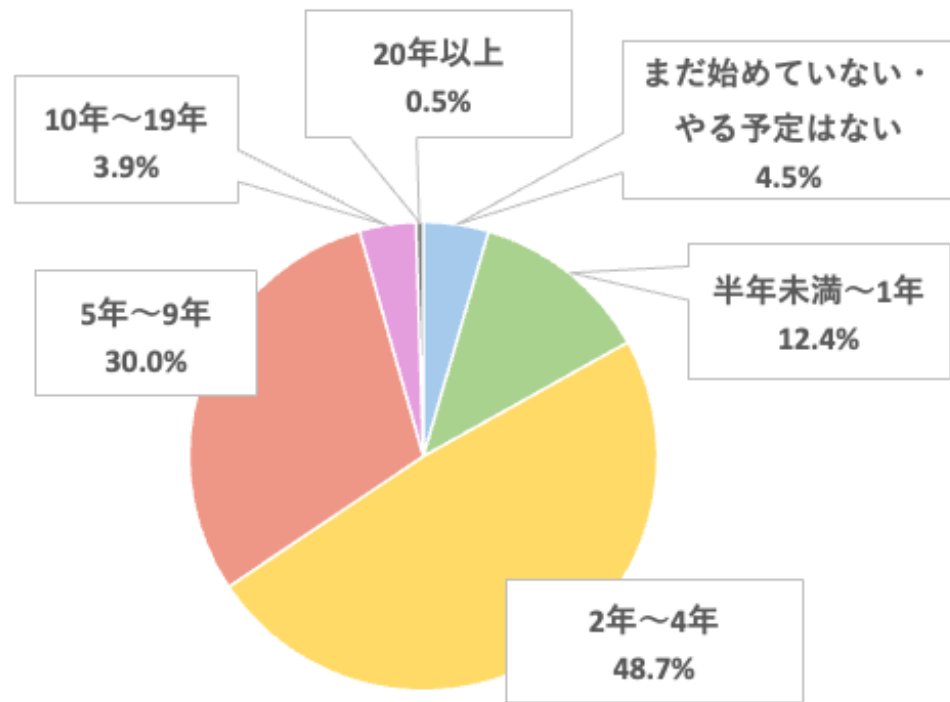
・特に2人以上世帯では、30代以降、インデックス投資額が明確に増加、60代でも一定額を継続投資

→若年層だけでなく、中高年層にも投資習慣が定着

13

投資経験：インデックス投資

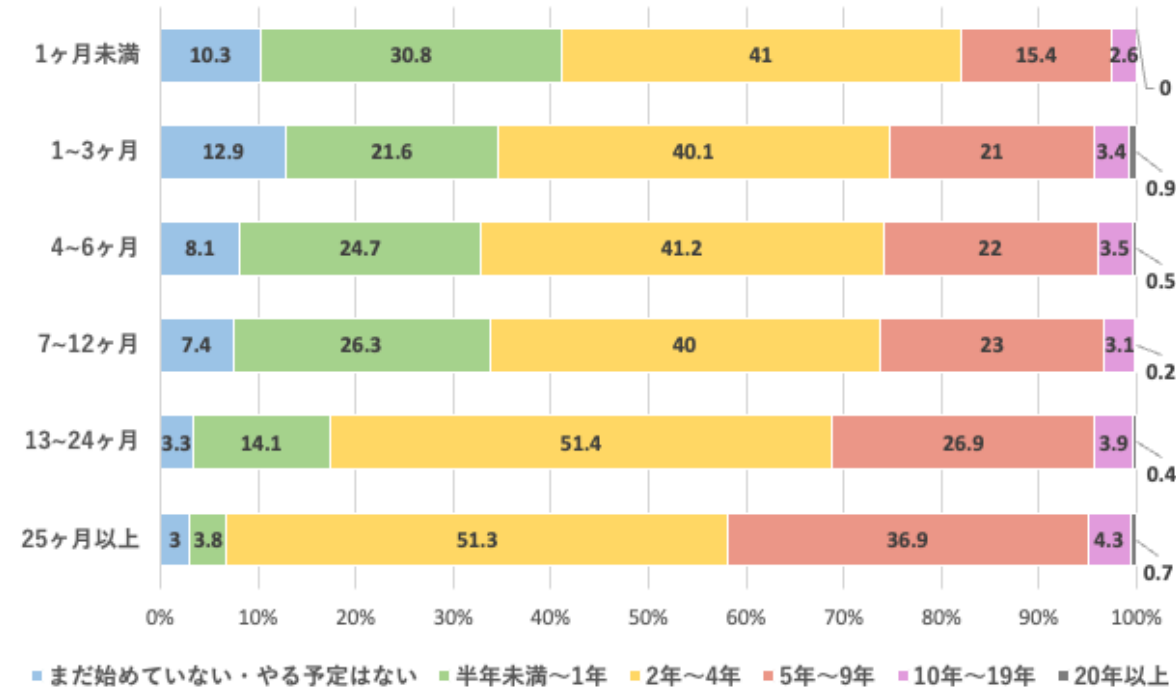
インデックス投資の経験年数



2年以上の投資経験を持つ人が7割

「2年～4年」が最も多く約半数（48.7%）、次いで「5年～9年」が30%

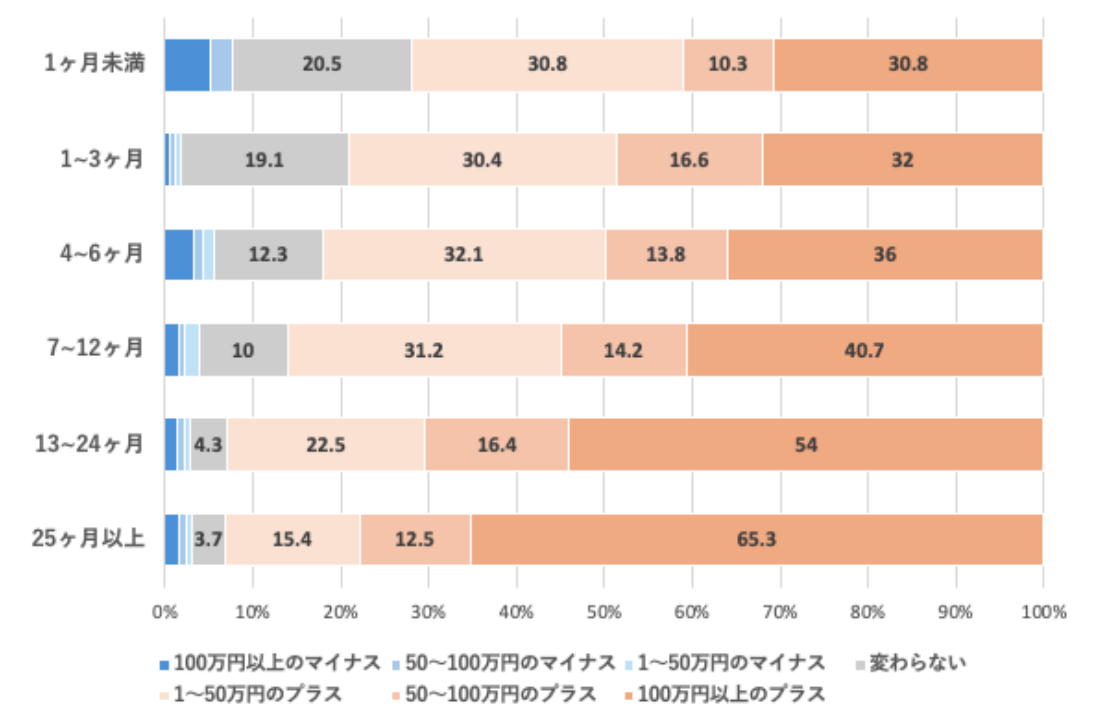
継続期間別の経験年数



継続期間が長くなるにつれて投資経験が長い

- ・継続期間1年を超えると、「2年～4年」が約5割を占め、「5年以上」も3割前後まで増加
- ・継続期間1年未満では、「まだ始めていない・やる予定はない」の層が10%前後存在
→ 入会初期にインデックス投資を始め、その後も長期的に継続している会員も多いことも見て取れる

継続期間別の投資成績について



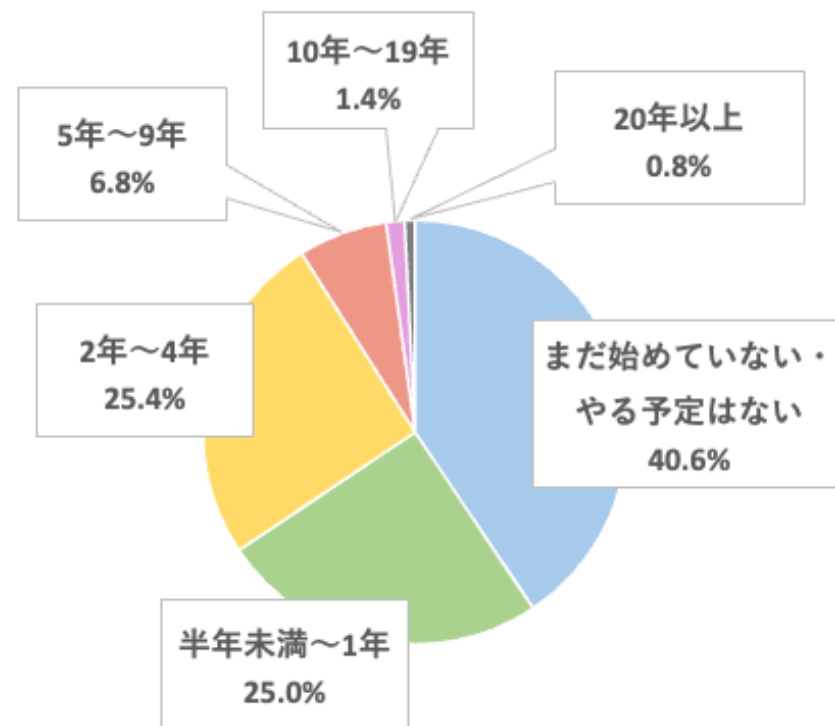
継続期間が長くなるほど、投資成績プラスに人が増加

- ・入会1ヶ月未満：30.8% → 25ヶ月以上：65.3%
- ・継続期間が長くなるほど投資経験が長くもなっているため、「時間をかけて成果が出やすい」という性質とも合致する

14

投資経験：日本の高配当株投資

高配当株投資の経験年数

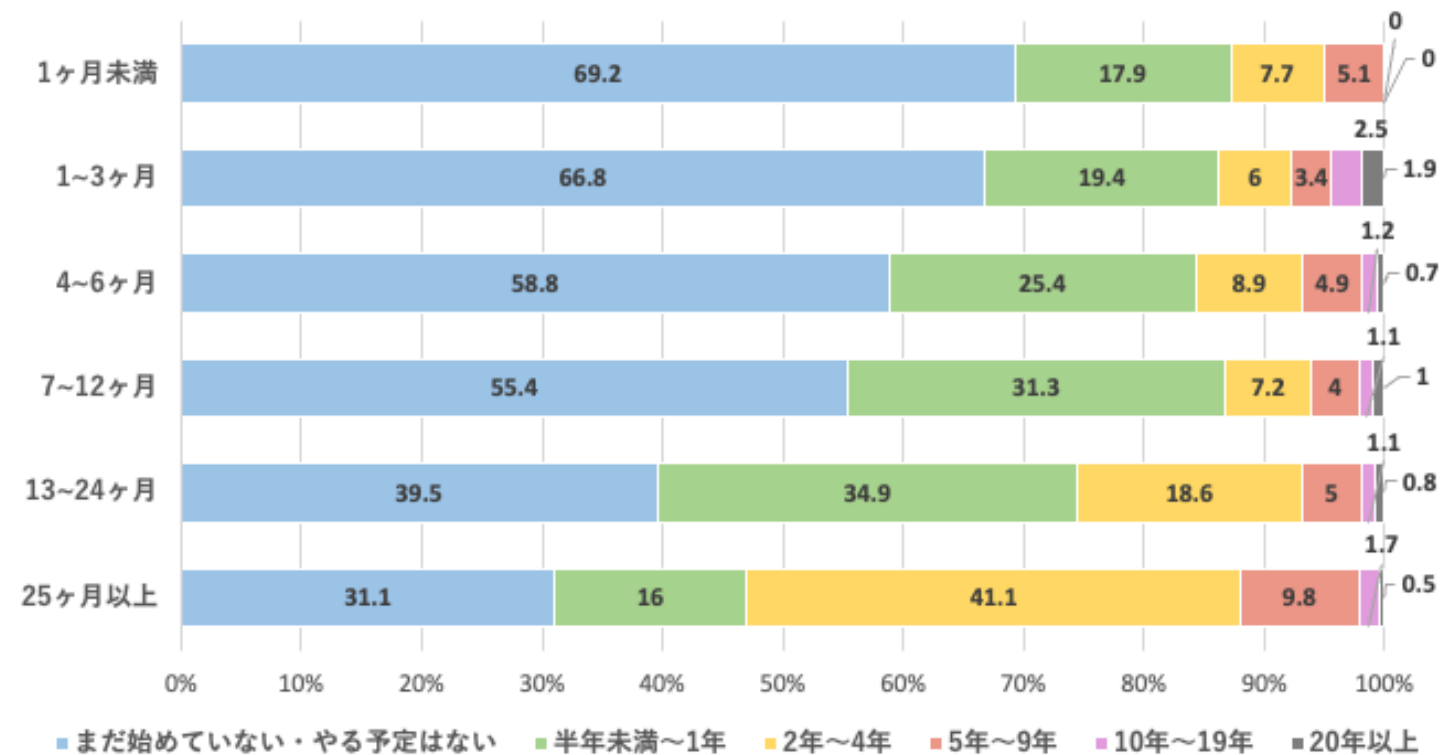


まだ始めていない・やる予定はないが多くなりやすい

「まだ始めていない・やる予定はない」が40.6%と最も多い。次いで、「2年～4年（25.4%）」、「半年未満～1年（25.0%）」と続く。

→インデックス投資に比べて長期の投資経験者が少ない。

継続期間別の経験年数



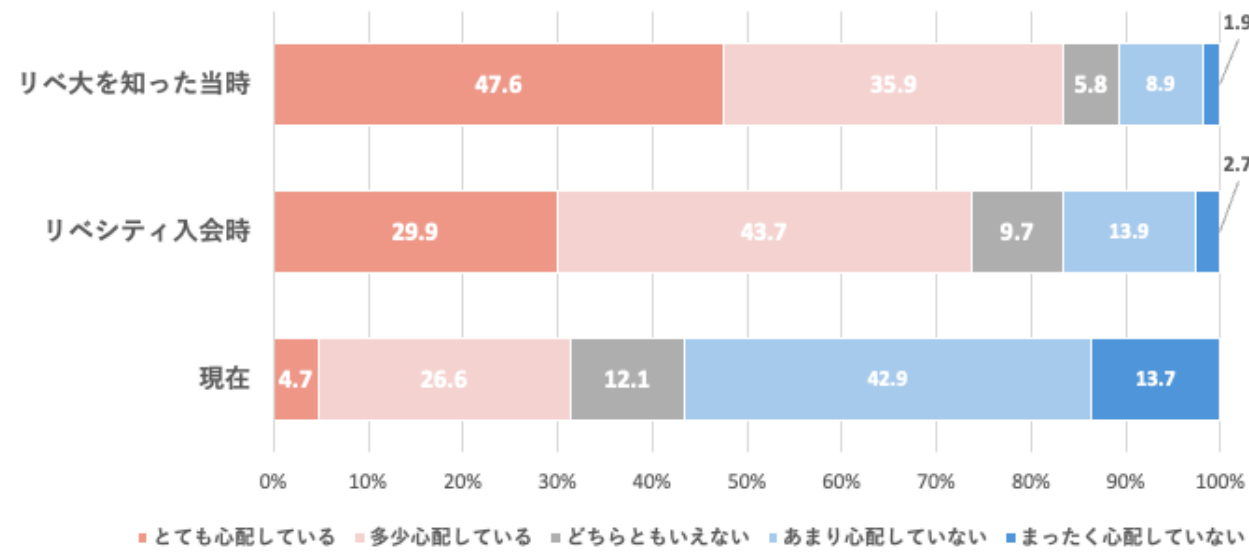
継続期間1年～で60%以上が開始している

- ・継続期間1ヶ月未満～1年では、「まだ始めていない・やる予定はない」が50%を超える
- ・日本の高配当株投資は、入会から1年経過～過半数を超えるというデータに

15

老後の生活への不安について

老後の生活をどの程度心配しているか

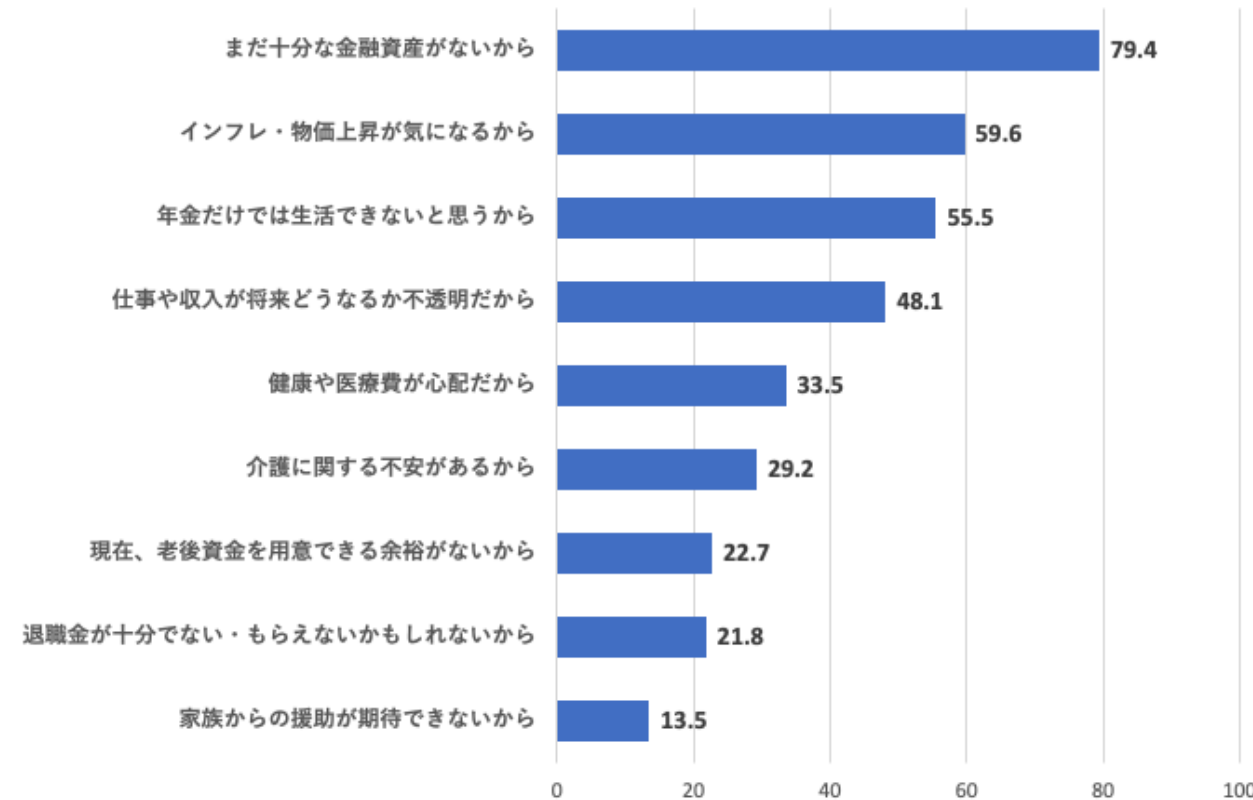


会員で老後を不安に思っている人は少ない

- ・「リベ大を知った当時」は、老後に対する漠然とした不安が大きかったが、リベ大が発信する情報やリベシティ入会を通じて、老後への不安が確実に解消されている
- ・参考値として、令和7年世論調査では、単身世帯で76.8%、二人以上世帯で78.2%

老後の生活が心配な理由

※心配と回答した人のみにヒアリング

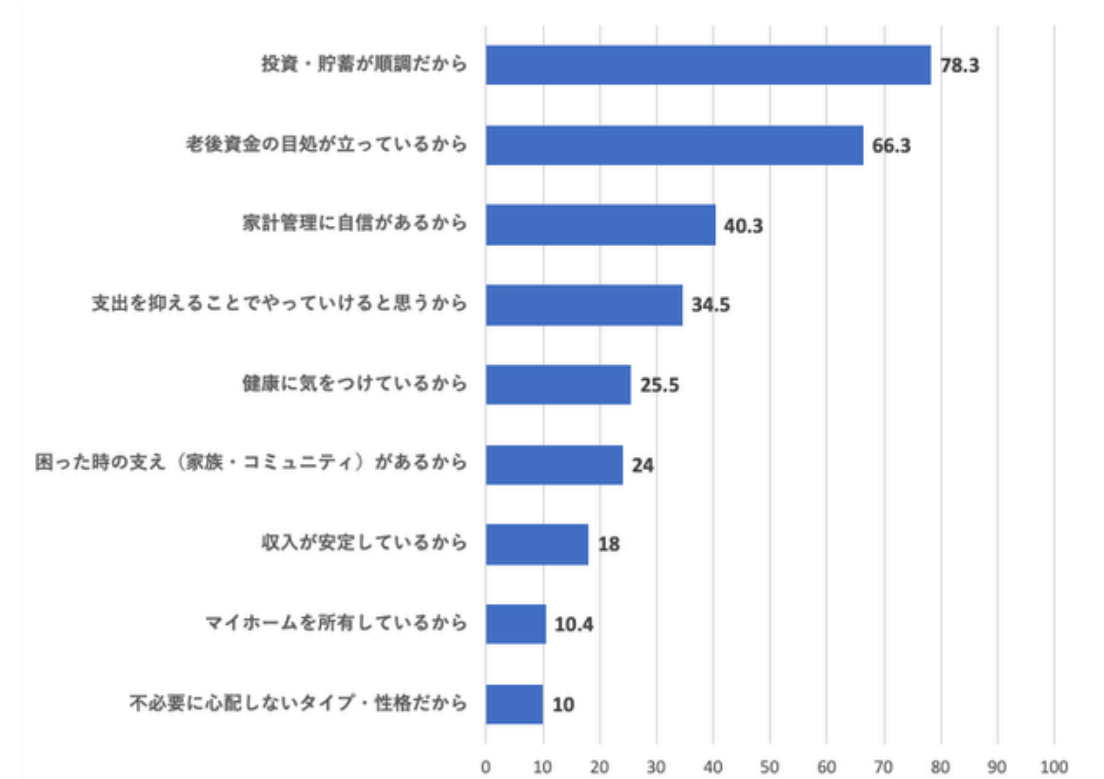


健康や介護よりも、金銭的に足りるのか

- ・最も多かった理由は「まだ十分な金融資産がない」(79.4%) 次いで、「インフレ・物価上昇」「年金だけでは生活できない」(55.5%) が続く
- ・世論調査は、十分な金融資産がないからが60%強、年金や保険が十分ではないからが40%強、物価上昇すると考えられるからが30%強
- 将来のお金に不安を持っている人が入会している

老後の生活が心配していない理由

※心配してないと回答した人のみにヒアリング



老後への金銭的な準備・行動を始められているか

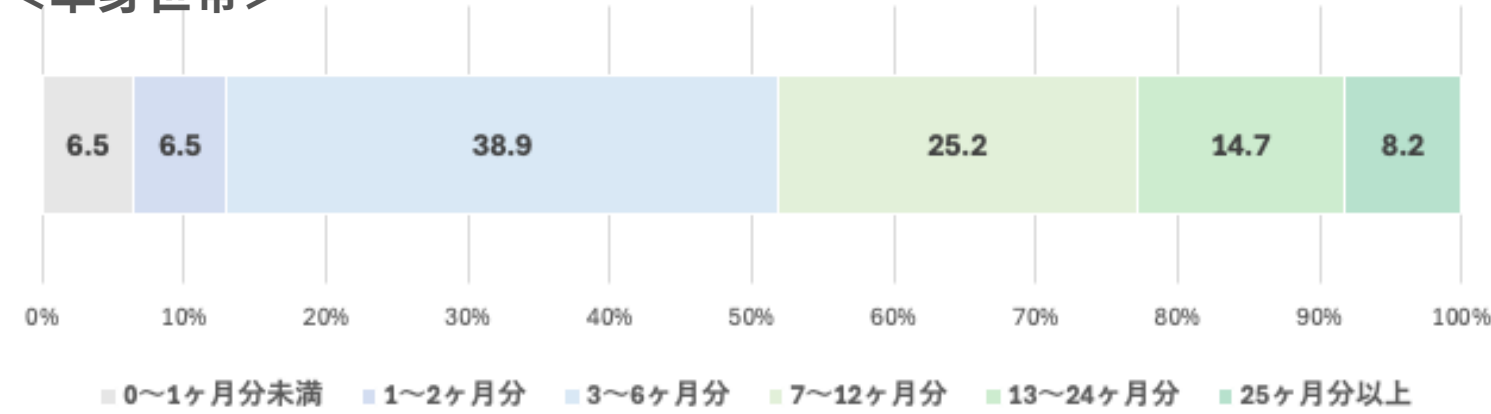
- ・最も多かったのは「投資・貯蓄が順調だから」(78.3%) 「老後資金の目処が立っているから」(66.3%)
- ・世論調査は、貯蓄などが順調だからが2割前後、十分な金融資産があるからが30~40%
- 将老後資金の目安を把握し、準備ができていることが主な理由

16

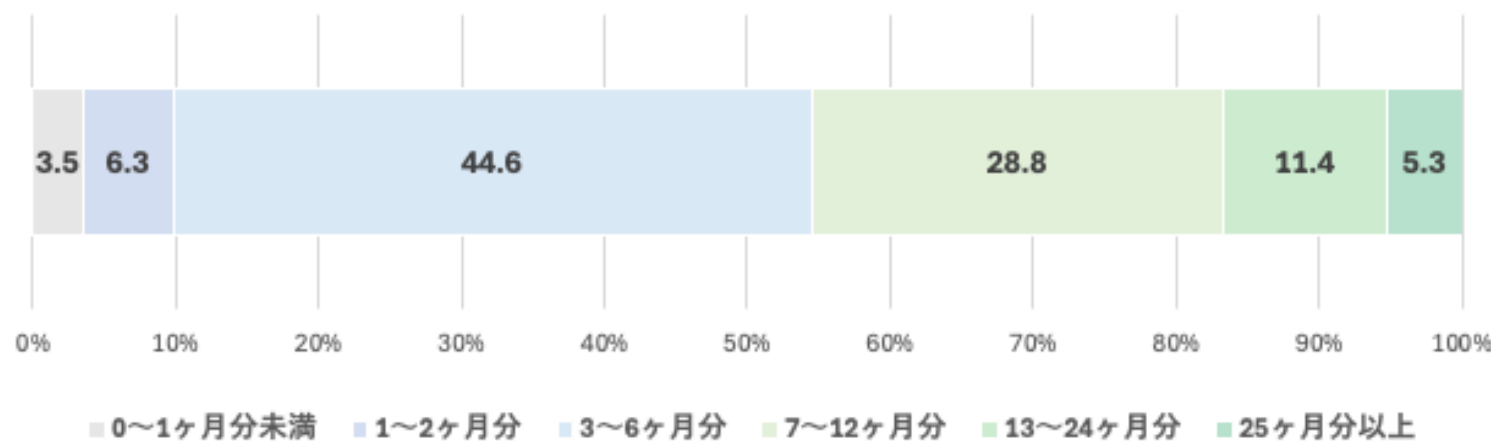
生活防衛費について

生活防衛費は収入の何ヶ月分を用意しているか

<単身世帯>



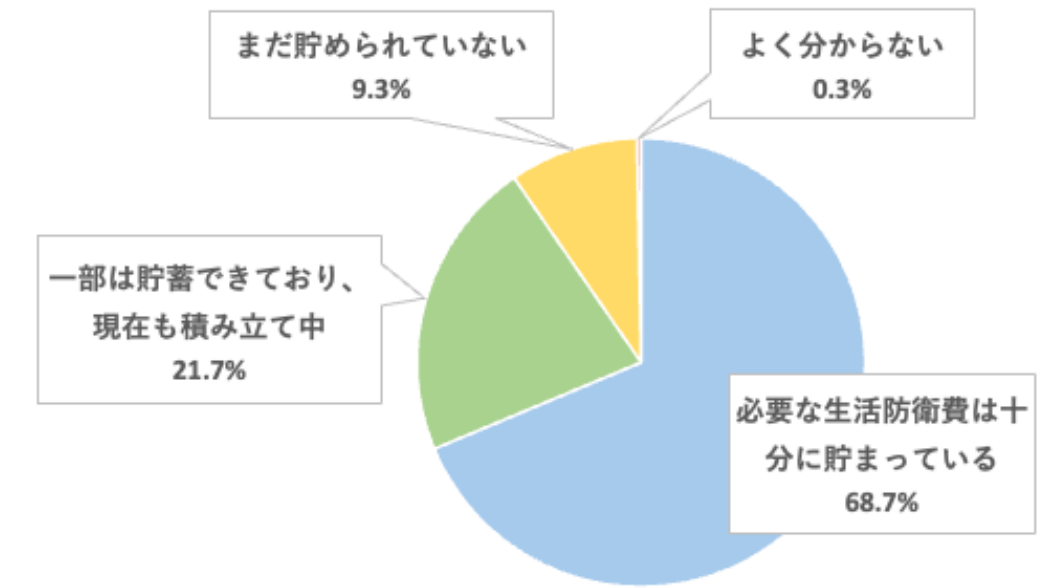
<2人以上世帯>



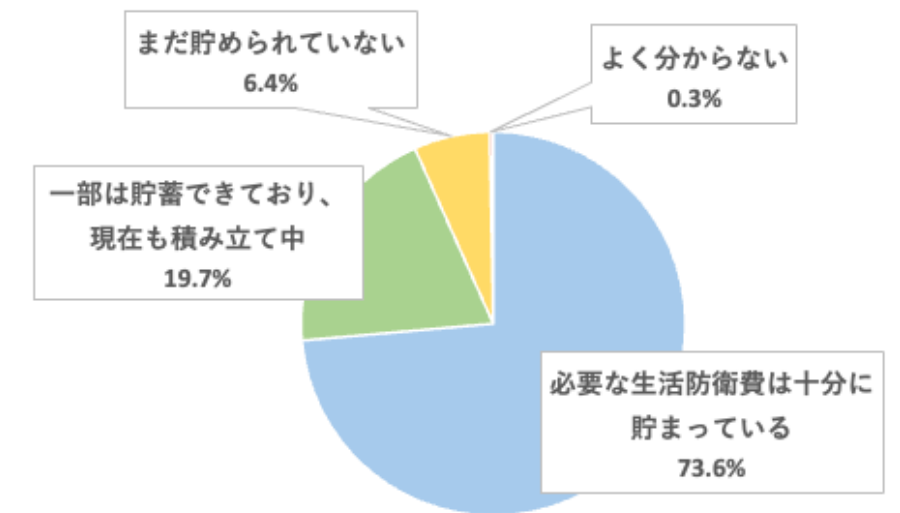
「3~6ヶ月分」「7~12ヶ月分」が中心
十分でない層（現在貯めている層）は10%前後

生活防衛費の現在の貯蓄状況

<単身世帯>



<2人以上世帯>



意識として60%強が「十分たまっている」と回答
まだ始められてない人も10%弱いる